

南アルプスの歴史を発見する

南アルプス市芦安山岳館

南アルプス市芦安山岳館では、訪れた人を南アルプス山脈の形成からこの地域に人間が居住するようになるまでの数万年の歴史の旅にお連れします。2003 年に建てられたこの山をテーマにした風通しが良い建物は、主に地元で生産された蜜色の木材でできています。ハイカーも立ち寄った人も、展示を通して南アルプスの美しい自然と文化を知ることができます。

入館するとすぐに、「輪かんじき」という木とわら縄で作られた特大のスノーシューが目に入ります。この輪かんじきは日本の他の地域で使用されるかんじきとは異なり、積雪量は少ないものの固いことが多いこの地域の雪にしっかり食い込む 2 本の木製のスパイクが付いています。館内ではこのような地元の文化が紹介されています。

何百年もの間、林業はこの地域の主要産業でした。現在、樹木の伐採は制限され、慎重に管理されていますが、この施設では大規模な手作りの道具類の展示から過去を垣間見ることができます。地元の林産物の持続可能な利用は、この地域がユネスコエコパークの指定において重要な要素であるため、ここには地元の木製品が多数展示されています。

情報満載の展示では、地域固有の動植物、南アルプス登山の黎明期に登山家を導いた個性的なガイドたち、そしてこの地域でしか使われていない狩猟道具や登山道具も紹介されています。子どもたちは、遊びやインタラクティブ展示を通して自然について学ぶことができます。

歴史好きな人や登山愛好家は、国内でも指折りとされる南アルプス市芦安山岳館の山と登山に関する本や雑誌の膨大なコレクションを閲覧するのもいいでしょう。資料の多くは個人収集家によって寄付されたもので、中には 19 世紀に書かれた本もあります。ほとんどの書籍は日本語ですが、本棚を見渡すと英語やドイツ語など他言語で書かれた興味深い古書が見つかります。